


ふりがな 氏名	しみず じゅんき	都道府県	東京都	
	清水 純樹			
所属/肩書	大田区立大森第六中学校／教諭			
私の ESD活動	「ホテル復活プロジェクト」等の環境教育、 「災害に立ち向かう」防災教育などにより地球市民を育てる			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

<環境>（活動内容）洗足池ホテル復活プロジェクト、空心菜や植生いかだによる洗足池水質浄化、洗足池公園および周辺朝清掃ボランティア、各教室にてゴーヤグリーンカーテンづくり

（成果）ボランティア活動を通して、生徒は環境について考え行動している。その結果、生徒の自己肯定感を高めるのに役立っている。

<防災>（活動内容）避難所開設訓練、各生徒席にヘルメット設置

（成果）「災害に立ち向かう中学生」の育成を目指し、学校を拠点とした避難所開設訓練及び防災訓練に参加している。その結果、学校防災活動拠点整備事業モデル校として認定された。

<まちづくり>（活動内容）大岡山花壇メンテナンス、大岡山花壇へ芝桜植樹、大田区の特産物である馬込三寸人参を存続活動

（成果）「地域は屋根のない学校」として人と人とのつながりを大切にする気持ちの育成に繋がっている。また、道行く人にも直接「ありがとう」と声をかけられることで、生徒の自己肯定感が高まる。

<国際理解>（活動内容）エコキャップ回収活動（大森六校区の小学校にも協力を依頼し回収。ワクチンを購入する団体へ寄付）ACC「特定非営利活動法人 危機の子どもたち・希望」の活動（ベトナムへYシャツの送付、ラオスの子どもたちへ手作り絵本の送付、カンボジアの子どもたちへ手作りしおりの送付）

（成果）世界の中の人として、どのように生きていくべきかを考える機会となり、進路選択にも役立っている。

<農業・食>（活動内容）修学旅行での食農教育（修学旅行は、岩手県花巻市を訪れて民泊を実施。各家庭で農業体験をする。）育てたゴーヤを使った給食（ゴーヤグリーンカーテンを夏休みも休むことなく各クラスで分担して水遣りを行い、育てたゴーヤを給食で食べる。）

（成果）生徒ひとりひとりが実体験をすることと民泊先で生まれる新しい絆によって、農業について身近に考えるようになる。

・大田区立大森第六中学校：<http://academic3.plala.or.jp/om6j/>

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

地球市民としての価値観や思考・判断・表現力を磨き、自らの考えに基づいて社会に積極的に参画することこそ最大の役割であると考え。紛争や環境問題、貧困など複雑な問題が地球規模で進行する今日、持続可能な社会をいかに築いていくかの明確な答えは誰も持ち合わせていない。だからこそ、次の世代を担う若者が多様な声を発し、できる限り沢山の代替案を探索する必要がある。

政治、ビジネス、金融、エネルギーなどにおける現行のシステムが持続不可能であることがあらゆる方面から指摘されている一方、教室で生徒達の考えを聞くとそれらに縛られない多様な価値観を持っていることに気づくことがある。教育の役割はこうした多様な声を結びつけ、拡大させ、地球市民を育てていくことにあると思う。政治に関わる市民として、あるいは経済の行方を選択する消費者や投資家として、持続可能性を目指した行動をとり続けることが世界をシフトさせていくと私は考える。